

紙上講習会「ドイツにおける移民の教育：現状と課題」

目次

1. はじめに
2. 外国人労働者の子どもの教育
3. ドイツの教育制度
4. 就学前教育
5. 学校教育
6. おわりに

1. はじめに

外国学図書館LSの大津と申します。本講習会は「ドイツにおける移民の教育：現状と課題」と題し、ドイツにおける移民をめぐる現状と課題を教育という観点から学ぶことを目的とします。2015/2016年に100万人を超える難民が押し寄せたドイツですが、歴史的にみればドイツは長年に渡り多くの移民を送り出し、受け入れてきた国です。本講習会では、戦後ドイツにやって来た移民¹に焦点を当て、特に就学前教育から中等教育における状況を見ていきましょう。

2. 外国人労働者の子どもと教育

2.1 外国人労働者の受け入れ

「経済の奇跡」と呼ばれた戦後ドイツの経済復興は目覚ましいものでした。1955年、旧西ドイツは労働力不足を背景に、イタリアと労働力募集協定を締結し、その後スペイン・ギリシャ（1960年）、トルコ（1961年）、モロッコ（1963年）、ポルトガル（1964年）、チュニジア（1965年）、ユーゴスラヴィア（1968年）と協定を結びました。当時は単身滞在者が中心で、彼らの滞在は一時的とみなされていました。しかし滞在が長期化するにつれ、家族を呼び寄せるようになり、1961年には約10万人であった外国人労働者の家族が1971年には100万人を超え、1973年の募集協定停止以降、家族呼び寄せの動きが一層加速しました²。これに伴い外国人生徒の数も増え、1970年代になるとようやく移民の子どもの教育をめぐる諸課題が議論の俎上に載せられるようになりました。

¹ 本講習会における移民・移民の背景を持つ人とは、連邦統計局の定義に従い、「自分自身、もしくは少なくとも両親のいずれかが出生によるドイツ国籍を持たない者」とします。

² 数値についてはDiefenbach(2007)、217～218頁参照。

2.2 教育現場における対応³

当時、教育現場では子どものドイツ語能力を向上させる一方、帰国に備えて「文化的アイデンティティ」を守ること、すなわち母語での補習授業や準備学級も実施されていました。1980年代に入るとこうした外国人に対する特別教育が批判され、新しい方向性が模索されるようになりました。ここで登場したのが文化の多様性を認めて言葉や宗教などの差異を承認していこうとする、異文化間教育の取り組みです⁴。特に1990年代初頭は外国人排外主義が台頭し、若者の極右主義を防ぐという観点からも持続的な異文化間教育が推進されました。

教育改革をさらに加速させたのは、2000年のいわゆる「PISAショック」です。OECDが実施した学力到達度調査によってドイツの子どもの学力問題が明るみに出されました。それ以前から学力低下については指摘されてきましたが、2000年のPISAの結果はドイツ社会に大きな衝撃を与えました。調査ではドイツは他のOECD諸国と比較して生徒の学力格差が大きく、学力と社会出自との関連性が極めて強いこと、また移民の子どもの成績が低いことが示されました。

その後、政治的意図からも教育的措置が数多く実施された結果、移民を取り巻く教育環境に改善は見られるものの、現在に至るまで課題も残されています。では、一体どのような課題を抱えているのでしょうか。具体的な状況を見ていく前に、ドイツの教育制度について簡単に整理します。

³ 本節については下記サイトを参照。<https://www.bpb.de/gesellschaft/migration/dossier-migration-ALT/56500/bildungsungleichheit?p=all> [最終閲覧：2021年2月9日]

⁴ 異文化間教育については下記サイトを参照。

<https://www.kmk.org/themen/kultur/interkulturelle-bildung.html> [最終閲覧：2021年2月9日]

3. ドイツの教育制度

ドイツの教育現場が抱える課題を見ていく前に、教育制度について簡単に紹介します。

図1 ドイツの学校・職業教育制度⁵

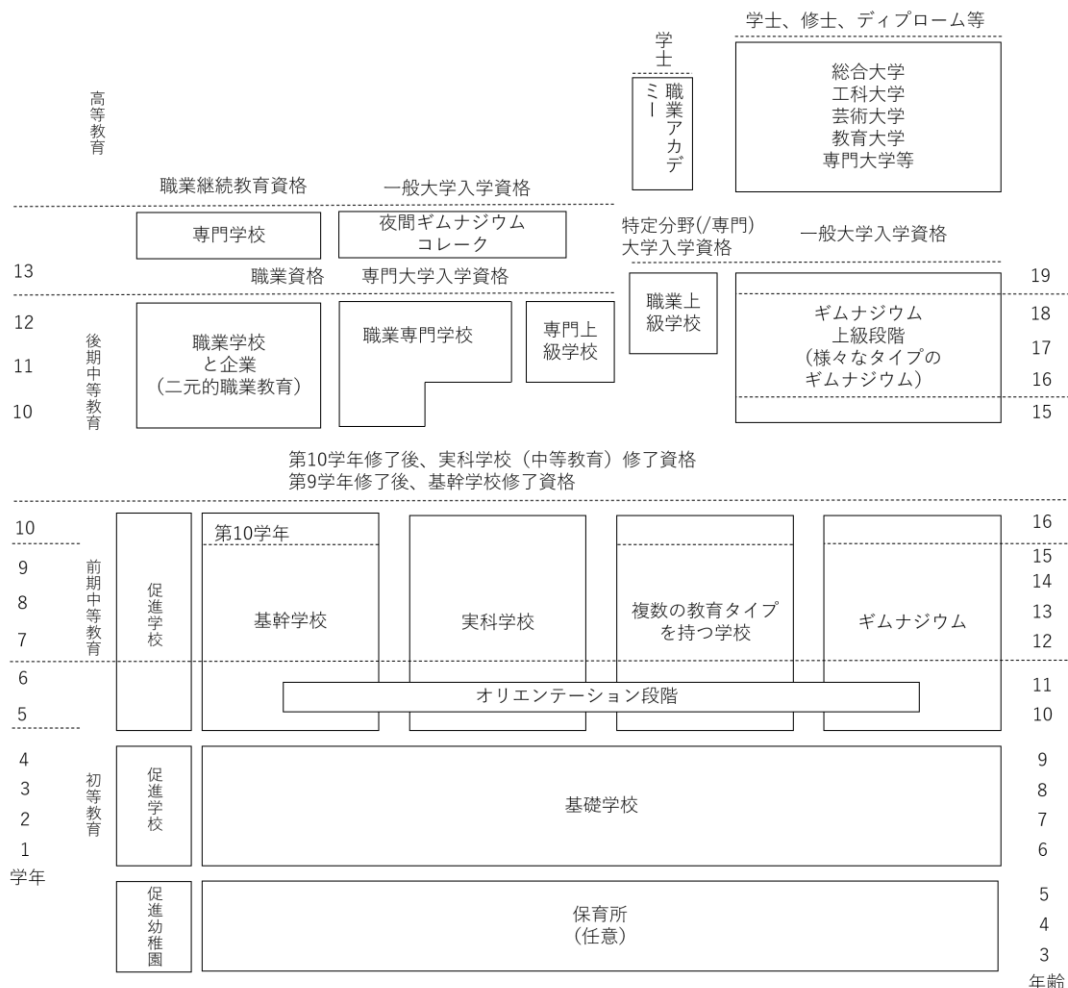


図1は教育・職業制度の概観を表したものです。4年間の基礎学校を終えると、主に5～6年間の基幹学校、6年間の実科学校、8～9年間のギムナジウムに進みます。このほかに、初等教育と中等教育を包括した統合制学校も設置されています。前期中等教育を終えると、多くの基幹／実科学校修了生は職業訓練を受け、ギムナジウムでは上級段階に進みます。昨今は高学歴化志向により、大学入学資格を有する職業訓練生も増えています。次節以降では就学前教育から中等教育までの移民の状況を見ていきます。

⁵ Kultusministerkonferenz (2019): Grundstruktur des Bildungswesens in der Bundesrepublik Deutschland (Diagramm)を基に筆者作成。

4. 就学前教育

☞ポイント

- ・移民の背景を持つ5歳未満の子どもの割合は40%
- ・3歳～5歳未満の子どもの就学前教育への参加は促進されている
- ・就学前教育の参加を促進する要素として、母親の就労や親の教育水準があげられる
- ・地域により移民の子どもの入所率、保育施設に占める移民の割合は著しく異なっている

移民の流入や外国籍の母親の比較的高い出生率から、就学前教育段階における言語の多様化が進み、家庭内でドイツ語を使用しない子どもの割合が増加しています（vgl. Autorengruppe 2020: 97）。2019年現在、5歳未満の子どもの移民の割合は約40%です（vgl. Statistisches Bundesamt (a): 2020）。

ドイツの移民統合政策では特に言語習得が焦点化されており、移民の子どもができるだけ早い段階でドイツ語環境に身を置くことが重視され、就学前教育が促進されてきました。

図2 移民の背景別にみる子どもの入所率⁶

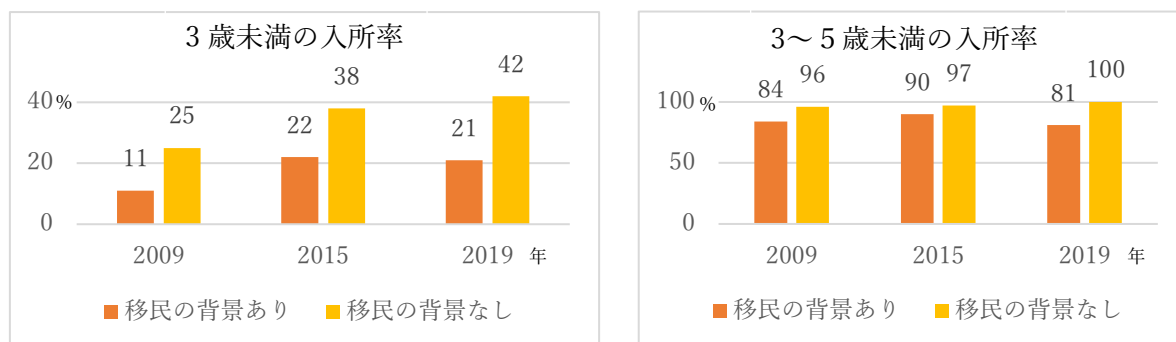


図2に示すように、移民の背景の有無により保育施設への入所率に差が生じています。3歳未満の入所率は移民の背景の有無を問わず直近10年間で増加していますが、両者には現在も2倍の開きがあります。次に、3歳～5歳未満の入所率を見ますと、2009年から2015年にかけて差は縮まったものの、2015/2016年の難民の流入を受け、再び差が開いています（vgl. Autorengruppe 2020: 87）。3歳未満の子どもの入所率が低い理由として、「母親の就労」と「親の教育水準」があげられます。すなわち、移民の背景の有無で比較すると、移民の母親の就業率は低く、共働き世帯を優先する基準があるため、ポストが得にくい状況にあるのです（vgl. Autorengruppe 2016⁷:170-171, 2020: 87）。

⁶ Autorengruppe Bildungsberichterstattung (2020): *Bildung in Deutschland 2020: Ein indikatoren-gestützter Bericht mit einer Analyse zu Bildung in einer digitalisierten Welt*, 88頁 (Abb. C3-1)を基に筆者作成。

⁷ 「移民の背景」の定義は2016年に更新されたが、本文献における移民の背景の定義は、国籍を考慮せず、自分自身、両親及び祖父母がドイツに移民した者を指す。

保育園の入所率については地域差も極めて大きく、例えば、移民の背景の有無によらず旧東ドイツでは3歳未満の入所率が比較的高いことが報告されています（vgl. Autorengruppe: 2018）。また、保育施設に占める移民の割合も地域により異なっています。少なくとも両親のいずれかが外国人である子どもの割合が50%を超えるのは旧東ドイツでは保育施設の0.6%に過ぎませんが、ベルリンでは31.1%にのぼります（vgl. Olszenka und Meiner-Teubner 2020: 103）。

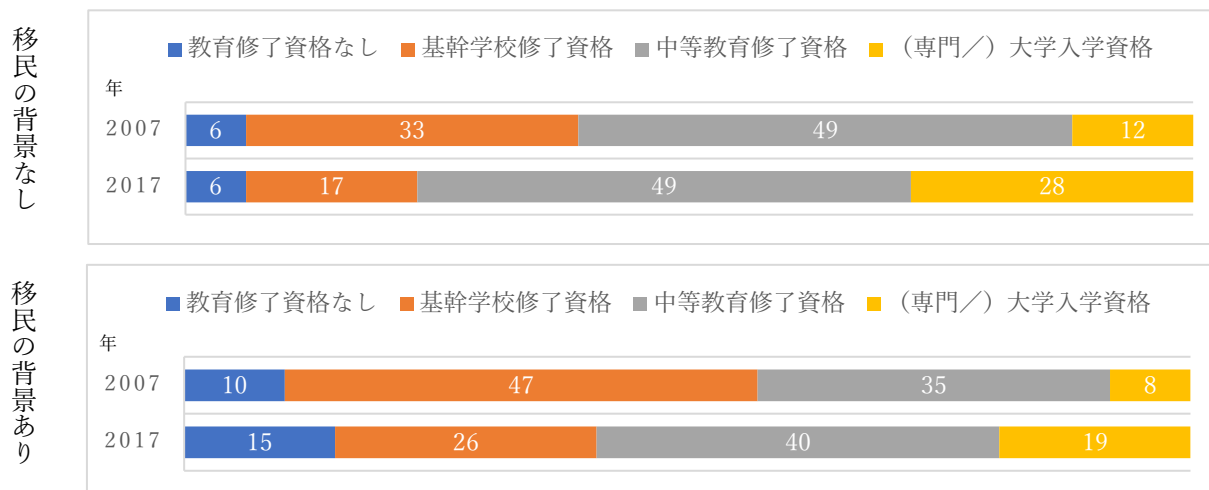
5. 学校教育

ポイント

- ・移民の背景により修了資格の取得状況が異なる
- ・基幹学校修了資格を持つ者は移民に多いが、移民の背景による（専門／）大学入学資格の取得率の差はほとんどない
- ・教育の現場にて移民は困難な状況にあるが、過去に比べて教育機会は改善されている
- ・ドイツでは学歴と社会的出自との関連性が高い

図3は2007年と2017年の15～20歳未満の移民の背景別にみる教育修了資格の状況を示しています。ここから、移民の背景の有無で傾向に違いがあることがわかります。移民では基幹学校修了資格を持つ者の割合が高いですが、2007年から2017年にかけてその割合は約20ポイント減少しています。また（専門／）大学入学資格の取得者は11ポイント上昇して19%に達しており、中等教育修了者の割合も増加しています。

図3 2007/2017年の15～20歳未満の移民の背景別にみる教育資格状況（%）⁸



⁸ Die Beauftragte der Bundesregierung für Migration, Flüchtlinge und Integration (2019):12. Bericht der Beauftragten der Bundesregierung für Migration, Flüchtlinge und Integration, 148 頁 (Tabelle 19)を基に筆者作成。なお、小数点第一を四捨五入して計算した。

2018年の小規模国勢調査によれば、教育修了資格を持たない者の割合は移民が顕著に高いです。なお、移民の中でも外国籍では大学入学資格取得率が14.5%と低く（vgl. Statistisches Bundesamt (b): 2020）、一層不利な状況にあるといえます。（専門／）大学入学資格を持つ者の割合については、移民の背景有で26.7%、移民の背景無で28.5%と、ほとんど差がありません（vgl. Statistisches Bundesamt 2019: 48）。

冒頭でも触れましたが、これまで数々の調査から、ドイツでは親の所得や教育水準が子どもの学力、あるいは学歴に与える影響は大きく、移民の子どもはまさにこの影響を強く受けていることが論じられています。移民のなかでも両親ともに外国で生まれているかどうか、という点や、世代、出身国によっても差が生じています。

移民の子どもは家庭の社会経済的背景や言語環境など、教育制度に組み込まれる前からすでに不利な状況にあり、初等教育段階で顕在化した差異が、中等教育にかけてさらに拡大するとされています。とりわけ言語習得の観点から、就学前教育は移民の教育格差を是正する決定的な役割として位置づけられているのです。

6. おわりに

最後に、これまで見てきた移民の子どもの教育をめぐる状況への対応として移民家庭を対象とする政策的な取り組みを紹介し、まとめとします。

昨今、移民家庭、親にアプローチすることにより、子どもの教育機会を改善していこうとする動きがあります。ドイツの学校には保護者同士が集って語り合う場や、教師と保護者が話し合う場が設けられています。しかし、こうした場に参加すること自体のハードルが高く、ドイツ語能力や文化資本といった「参加条件」を満たす必要があります。そこで出てきたのが、敷居の低い親教育支援です。これまで教育を十分に受けていない、あるいは社会経済的に困難な状況にある移民家庭が参加しやすいプロジェクトが数多く実施されてきました。具体例として、母親を対象とするドイツ語学習コースや、子育て・教育支援が挙げられます。これらのプロジェクトは教育機関の連携していることが多く、親と教師・保育士とのコミュニケーションが促進されることで、親が子どもの教育により積極的に関わっていくことができる環境が形成されています。言語という観点からは、ドイツ語だけでなく母語（／出自言語 *Herkunftssprache*）も重視されています。ドイツでは統合政策のなかでも言語習得が重視されている点には触れましたが、ここでいう言語とは、受け入れ社会の言語に加え、移民たち自身の言語も含まれています。言語による統合とは出自言語を抑圧することではなく、多文化社会ドイツにおけるコミュニケーション能力を促進することなのです（vgl. Britz: 2007）。ドイツの多くの学校で、出自言語を学ぶ機会が提供されています。

現在、ドイツでは4人に1人が移民の背景を持つとされています。言語・文化・宗教など、多様なバックグラウンドを持つ人々から構成されるドイツの姿は、今後の日本社会においても多大な示唆を与えられるでしょう。

参考文献

Autorengruppe Bildungsbericht (2016): *Bildung in Deutschland 2016: Ein indikatorengestützter Bericht mit einer Analyse zu Wirkungen und Erträgen von Bildung*. Bielefeld.

(<https://www.bildungsbericht.de/de/bildungsberichte-seit-2006/bildungsbericht-2016/pdf-bildungsbericht-2016/bildungsbericht-2016>) [最終閲覧：2021年2月9日]

Autorengruppe Bildungsbericht (2018): *Bildung in Deutschland 2018: Ein indikatorengestützter Bericht mit einer Analyse zu Wirkungen und Erträgen von Bildung*. Bielefeld.

(<https://www.bildungsbericht.de/de/bildungsberichte-seit-2006/bildungsbericht-2018/pdf-bildungsbericht-2018/bildungsbericht-2018.pdf>) [最終閲覧：2021年2月9日]

Autorengruppe Bildungsbericht (2020): *Bildung in Deutschland 2020: Ein indikatorengestützter Bericht mit einer Analyse zu Wirkungen und Erträgen von Bildung*. Bielefeld.

(<https://www.bildungsbericht.de/de/bildungsberichte-seit-2006/bildungsbericht-2018/resolveuid/6301fccbdac5499fa9454b6338c697d0>) [最終閲覧：2021年2月9日]

Die Beauftragte der Bundesregierung für Migration, Flüchtlinge und Integration (2019): *Deutschland kann Integration: Potenziale fördern, Integration fordern, Zusammenhalt stärken. 12. Bericht der Beauftragten der Bundesregierung für Migration, Flüchtlinge und Integration*. Berlin.

(<https://www.integrationsbeauftragte.de/resource/blob/72490/1699390/478a6d7d9cd3fc2c18131ebfcfef3dac/lagebericht-12-data.pdf>) [最終閲覧：2021年2月9日]

Bundesministerium für Bildung und Forschung(2020), *Berufsbildungsbericht 2019*, Bonn.

(https://www.bmbf.de/upload_filestore/pub/Berufsbildungsbericht_2020.pdf) [最終閲覧：2021年2月9日]

Diefenbach, Heike (2007): Bildungschancen und Bildungs(miss)erfolg von ausländischen Schülern oder Schülern aus Migrantenfamilien im System schulischer Bildung. In: Becker, Rolf/ Lauterbach, Wolfgang (Hrsg.): *Bildung als Privileg: Erklärungen und Befunde zu den Ursachen der Bildungsungleichheit*, Wiesbaden.

Dollmann, Jörg (2015): Der Übergang von der Primar- in die Sekundarstufe. In: Diehl, Claudia/ Hunkler, Christian/ Kristen, Cornelia: *Ethnische Ungleichheiten im Bildungsverlauf*, S. 517-542.

Olszenka, Ninja und Meiner-Teubner, Christiane (2020): Kindertagesbetreuung. In: Lochner, Susanne und Jähnert, Alexandra (Hrsg.): *DJI-Kinder- und Jugendmigrationsreport 2020. Datenanalyse zur Situation junger Menschen in Deutschland*, S. 94-106.

(https://www.dji.de/fileadmin/user_upload/dasdji/themen/Jugend/DJI_Migrationsreport_2020.pdf) [最終閲覧：2021年2月9日]

Statistisches Bundesamt(a) (2020): *Bevölkerung mit Migrationshintergrund. Ergebnisse des Mikrozensus 2019: Fachserie 1 Reihe 2.2*. Wiesbaden.

(<https://www.destatis.de/DE/Themen/Gesellschaft-Umwelt/Bevoelkerung/Migration-Integration/Publikationen/Downloads-Migration/migrationshintergrund->

[2010220197004.pdf?_blob=publicationFile](#) [最終閲覧：2021年2月9日]

Statistisches Bundesamt (b) (2020): *Allgemeinbildende Schulen, Fachserie 11, Reihe 1*, Tabelle 6.2

Statistisches Bundesamt (2019): *Bevölkerung mit Migrationshintergrund: Ergebnisse des Mikrozensus 2019, Fachserie 1 Reihe 2.2*. Wiesbaden.

Britz, Lisa: Bildungsungleichheit und Ansätze interkultureller Pädagogik. In: Bundeszentrale für politische Bildung vom 16.05.2007.

(<https://www.bpb.de/gesellschaft/migration/dossier-migration-ALT/56500/bildungsungleichheit>)

[最終閲覧：2021年2月9日]

Luft, Stefan: Die Anwerbung türkischer Arbeitnehmer und ihre Folgen. In: Bundeszentrale für politische Bildung vom 05.08.2014.

(<https://www.bpb.de/internationales/europa/tuerkei/184981/gastarbeit>) [最終閲覧：2021年2月9日]

その他おすすめサイト

<https://www.bpb.de/> [最終閲覧：2021年2月9日]

→ドイツの連邦政治教育センターのウェブサイト。時事的なテーマも紹介されています。

<https://mediendienst-integration.de/> [最終閲覧：2021年2月2日]

→移民の統合について幅広い観点から、図表を用いてわかりやすく情報が整理されているサイトです。

【PR】

外国学図書館LSの紙上講習会バックナンバーを図書館Webサイトについて公開中

https://www.library.osaka-u.ac.jp/ta_lectures/



<2021年2月現在の既刊>

- 教職を志す者必見！ 現役高校教員LSのおススメ名作映画集
- 2020年のアメリカと映画館
- チェンマイでは、ゆっくり、あるくこと。
- イラン留学体験記（第1部：イランでの生活について）
- イラン留学体験記（第2部：イラン滞在中の印象的な出来事）
- カーロイ・ミハーイの生涯を通じてハンガリーの歴史を学ぶ（第1回・第2回）
- 2010年代中国における日本映画の上映について